

令和7年度 学校関係者評価

新居浜市立泉川中学校

I 学校関係者評議委員

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ・篠原 茂 氏 (学校運営協議会会長) | ・井川 昭二 氏 (学校運営協議会副会長) |
| ・真鍋 智明 氏 (学校運営協議会委員) | ・石川 武博 氏 (学校運営協議会委員) |
| ・林 正文 氏 (学校運営協議会委員) | ・原 寿也 氏 (学校運営協議会委員) |
| ・梶本 香織 氏 (学校運営協議会委員) | ・河上智恵美 氏 (学校運営協議会委員) |
| ・太田 初 氏 (学校運営協議会委員) | ・小山 博規 氏 (学校運営協議会委員) |
| ・柴田 雅昭 氏 (学校運営協議会委員) | ・星川 智和 氏 (学校運営協議会委員) |
| ・日野 智徳 氏 (学校運営協議会事務局) | |

2 学校関係者評価結果（令和8年1月23日実施）

(I) 学校からの報告

ア 成果

○ ICT活用の推進

教職員、生徒は「電子黒板やタブレット端末等の利用」について高い評価で、昨年度からもポイントが増加しており、教育環境のデジタル化が着実に進展している。

○ 授業改善と学力向上

分かりやすい授業づくり」が全対象で向上し、それに伴い「学力向上」の評価も全対象で前年度を上回るなど、授業改善の成果が表れている。

○ 生徒一人一人の尊重と指導体制

教職員の「生徒の良さを認める姿勢（3.8）」や保護者による「生徒指導方針の一貫性（3.6）」への評価が高く、組織的な指導体制が構築されている。

○ 地域連携の有益性

「地域との協働活動」に対する教職員評価（3.8）が極めて高く、地域連携が教育活動の強固な柱として機能している。

イ 課題

○ 基本的生活習慣と規範意識の低下

教職員の「生徒のあいさつ（2.5）」が前年度比-0.6 ポイントと大幅に下落した。

また、教職員の「ルールの遵守」も同-0.4 ポイントとなり、指導の再徹底が必要である。

○ 家庭学習の定着

「計画的な家庭学習」は全対象で 2.5～2.6 と依然として低迷しており、家庭と連携した学習習慣の確立が課題である。

○ 目標意識の希薄化

「目標を持った学校生活」の評価が教職員・生徒ともに低く、目標設定や生徒一人一人が主体的に取り組める動機付けなどの支援が必要である。

○ いじめ防止・学級づくりへの認識差

教職員が「いじめのない学校づくり」を高く評価している一方で、生徒の評価は前年度比-0.2 ポイントの 3.2 に低下している。今後も、いじめは「どの子にも、どの学校でも起こりうるもの」という前提に立ち、教職員によるこれまで以上に丁寧な見守りと、生徒の微細な変化を察知する姿勢が必要である。

(2) 意見まとめ

- 地域連携とボランティア活動への高い評価があり、多くの委員が、地域と学校の連携が良好であることを評価している。
- 計画立案や行事の準備における教職員の迅速かつ丁寧な対応に対し、感謝の言葉が多く寄せられている。
- 「大好き泉川の日」などのボランティア活動に多くの生徒が主体的に参加しており、地域として大変助かっているとの声があり、生徒の積極性への評価が高い。
- 泉川小学校との防災下校や交流を通じ、中学生が小学生に優しく接する姿や、小学生が「中学校に憧れ」を持つといった好循環が見られ、小中連携の確かな成果が出ている。
- 地域住民がアドバイザーとして生徒会の専門委員会に参加するなど、コミュニティ・スクールとしての実践がおおむね良い結果に結びついており、開かれた学校運営ができている。
- 電子黒板やタブレットの活用について教職員・生徒ともに評価が高く、教育環境のデジタル化が着実に進んでいる。
- 全 22 項目のうち 15 項目で保護者の評価が教職員を下回っており、保護者と教職員の認識差がある。これは、学校の方針や取り組みに関する情報共有・説明不足が要因ではないか。
- 評価基準のズレがあり、特に「あいさつ」などの項目において、生徒と教職員の間で「できている」とする基準に差がある。
- 自治会離れが地域とのつながりを減少させ、地域活動への理解や評価に影響しているとの懸念がある。
- CS 導入から 10 年が経過する中、改めて教師・地域住民・生徒会が交わって「子どもたちのために何ができるか」を語り合う「熟議」の場が必要である。
- 学校での取組をより積極的に保護者へ知らせることや、生徒が家庭で学校の出来事を話す習慣をつけることが、保護者の理解向上につながる。
- ジョブチャレやゲストティーチャー等の機会はあるが、コミュニティ・スクールの強みを生かして実際に地域で働く先輩や多様な職業人の地域住民から「将来に繋がる話」を直接聞く機会を更に設けることで、生徒一人一人が「将来の夢や生き方に対して気持ちが高まる」ような教育活動の実践が期待される。
- 管理職だけでなく、他の教職員と地域住民・小学校教職員との交流機会が増えることで、より連携が深まると期待される。